INAX

洗面化粧台

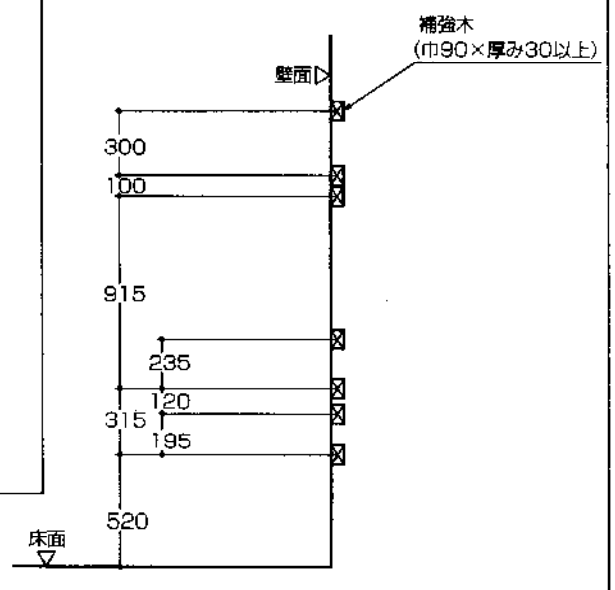
SDシリーズ

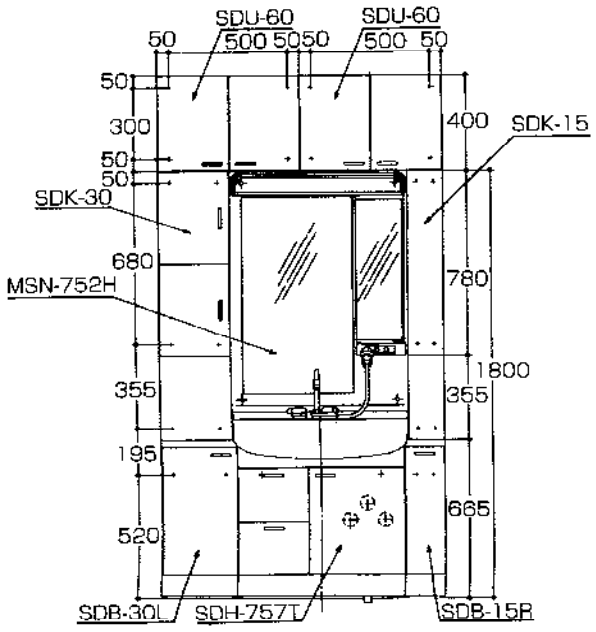
●洗面化粧台　SDH-757T，755S，755，750
SDN-757T，755S，755，750
607T，605S，605，600

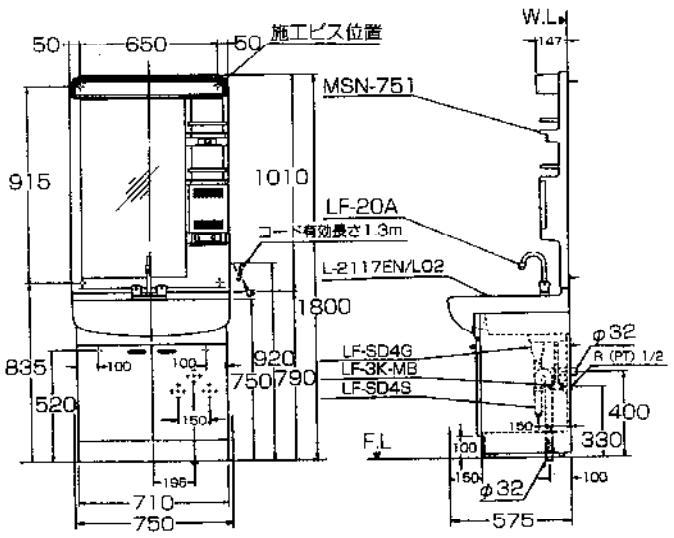
施工される前に

●施工に際しては、必ずこの施工説明書に従い正しく施工してください。
※この施工説明書に記載されていない方法で施工され、それが原因で故障を生じた場合は、商品の保証を致しかねますので十分ご注意ください。
●「保証書（取扱説明書裏表紙）」は貴店名、据付年月日を忘れずに記入の上、必ずお客様にお渡しください。
●施工段階での欠陥工事は、製造物責任法に基づき二次責任が問われる場合がありますことを十分にご認識いただき、お客様が安全で快適にご使用できるようご協力ください。

■寸法図







■付属部品

洗面化粧台

	SDH-757T,755S SDN-757T,755S,607T,605S	SDH-755,750 SDN-755,750,605,600
止水栓	1セット（各2個）	
排水トラップセット	1セット	
給排水蓋	1セット（3個）	
固定用ねじ	2本	
シャワーフック	1個	−
シャワースクリーン	1セット（2個）	−
ドライヤーフック	1個	−
石けん受け	1個	
施工説明書 ・取扱説明書	各1部	

ミドルキャビネット

	SDK-30,15
棚板	2枚
棚板用ダボ	8個
固定用ねじ	6本
化粧キャップ	2本

サイドベースキャビネット

	SDB-30	SDB-15
棚板	1枚	−
棚板用ダボ	4個	−
固定用ねじ	2本	1本

アッパーキャビネット

	SDU-75,60,30
棚板	1枚
棚板用ダボ	4個
固定用ねじ	4本

安全のために必ずお守りください

● ここでは施工に際して守らないと人身事故や、家財の損害に結び付く注意事項を挙げています。
施工前にこの項目をよくお読みいただき、正しく施工してください。

用語および記号の説明

警告・・・「守らないと重傷を負うことがあります。」
注意・・・「守らないと、ケガをしたり、物が壊れたりすることがあります。」
⚠・・・「注意しなさい！」（上記の「警告」、「注意」と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。）
🚫・・・「してはいけません！」（一般的な禁止記号です。）
・・・「分解してはいけません！」
❗・・・「指示通りにしなさい！」（一般的な行動指示記号です。）

⚠ 警告

ストーブやヒーターなど熱を発生するものを近くに置いて使わないでください。
※変色や変形、火災をおこす恐れがあります。

⚠ 注意

●修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造は行わないでください。
※ケガや故障が生じる恐れがあります。
●直射日光が当たる場合は必ずカーテンなどでさえぎってください。またスポット照明や殺菌灯を直接当てないでください。
※変色や変形の恐れがあります。
●この説明書以外の壁仕様（ＡＬＣ壁など）の場合はキャビネットの取付けをしないでください。
※キャビネットの取付強度が保てず落下する恐れがあります。必ず壁の施工のやり直しを行ってください。
●蝶番の調節後は必ず、Ａねじ、Ｂねじ、Ｃねじが固く締め付けられていることを確認してください。
※締付けが不足しますと蝶番がゆるみ、扉の外れ、落下によりケガをする恐れがあります。

お願い

浴室などの高温多湿な場所や水が浸る可能性がある床面には設置しないでください。
※木部が水を含んで腐ったりする恐れがあります。

株式会社INAX
本社 ☎0569-35-2700 札幌支社 ☎011-271-1701 東北支社 ☎022-263-1710 東京支社 ☎03-5541-7111 西東京支社 ☎0425-27-3341
横浜支社 ☎045-242-1710 千葉支社 ☎043-227-8171 埼玉支社 ☎048-668-1177 東関東支社 ☎0286-37-3378 関越支社 ☎0273-27-1793
甲信支社 ☎0263-36-2166 名古屋支社 ☎052-201-1717 静岡支社 ☎054-251-1710 北陸支社 ☎0762-64-1710 大阪支社 ☎ 06-539-3500
京滋支社 ☎075-222-1794 広島支社 ☎082-223-1710 四国支社 ☎0878-21-1701 福岡支社 ☎092-471-1710 南九州支社 ☎096-322-1794

●ミドルキャビネット　　SDK-30，15
●サイドベースキャビネット　SDB-30，15
●アッパーキャビネット　　SDU-75，60，30

施工前の確認

1.給水、給湯の確認

- 給水は上水に接続してください。
  ※温泉水など異物を多く含む水には使用できません。
- 給水配管が右側、給湯配管が左側に配置されていることを確かめてください。
  ※逆配管では表示通りに湯がでません。
- 給湯管はできるだけ短くし、必ず保温材を巻いてください。
- 開梱、取付けの際には商品の表面にキズをつけないように十分注意してください。
- 取付け後の保守点検のために必ず同梱の止水栓を設けてください。
- 必ず配管中の異物を完全に洗い流してください。
- 給水、給湯は以下の条件を守ってください。

〔ガス給湯器（比例制御式：16号相当）と組み合わせる場合〕

給水圧力　最低必要圧力・・・A＋0.08MPa {0.8kgf/cm²}
最高圧力　0.59MPa {6kgf/cm²}
Aはガス給湯器の最低作動圧力

●測定条件　※開閉ハンドルは全開です。
※ガス給湯器の温度調節は最高温設定です。

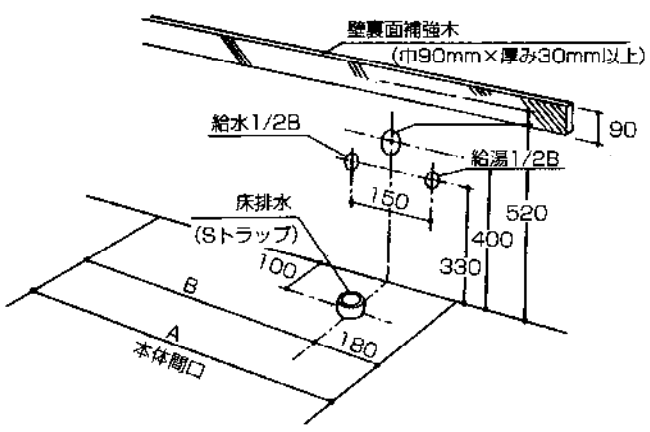
〔貯湯式温水器と組み合わせる場合〕

給水圧力　最低必要圧力・・・0.05MPa {0.5kgf/cm²}
最高圧力　0.59MPa {6kgf/cm²}

- 温度調節が容易に使い勝手をよくするために、給水圧力は給湯圧力より高圧か、または同圧となるようにしてください。
- 給水圧力が0.59MPa {6kgf/cm²} を越える場合は、市販の減圧弁等で適正圧力（0.20～0.39MPa {2～4kgf/cm²} 程度）に減圧してください。
- 給湯に蒸気は使用できません。

2.配管工事の確認

※給水、給湯管および排水管が所定の位置に指定の給排水管仕様で取出してあるか確認してください。



	600サイズ	750サイズ
A	600	750
B	420	570

3.壁面工事の確認

〔壁材、下地材の確認〕

- キャビネットの取付け可能な壁面は右図に示す（1）、（2）の場合のみです。
  （1）乾式壁３種
  （2）湿式壁２種
  以上５種類の壁面

〔補強木、仕上げ材の厚みの確認〕

- キャビネットの取付けには湿式壁以外の場合、壁面に補強木（幅90mm×厚み30mm 以上）が指定の位置（寸法図参照）に必ず必要です。あらかじめ建築施工の際に補強木を設けてください。直接、壁の仕上げ材にキャビネットの取付けはしないでください。
- 乾式壁の場合、補強木手前の仕上げ材は取付けねじを補強木にとどかせるため必ずトータルの厚みで 12.5mm以下のものを用いてください。
- 湿式壁の場合は、ＡＹボルトをコンクリートにとどかせるため、モルタル、タイルの仕上げはトータルの厚みで20mm以下としてください。また、壁本体がコンクリートブロックの場合は中空部をモルタル詰めしてください。

〔壁の不陸について〕

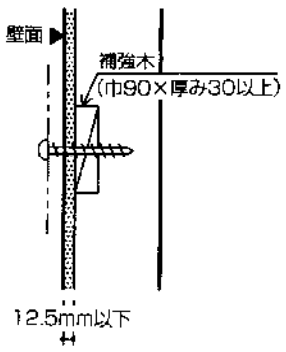
- キャビネット取付け壁面の不陸は５mm／２m以下であることを確認してください。（キャビネット本体を壁に当て、壁との隙間が５mm以下であることを確認してください）

⚠ 注意

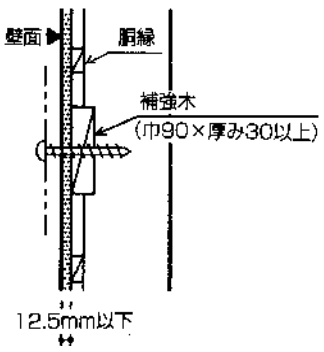
この説明書以外の壁仕様（ＡＬＣ壁など）の場合はキャビネットの取付けをしないでください。
※キャビネットの取付け強度が保てず落下する恐れがあります。必ず壁の施工のやり直しを行ってください。

（1）乾式壁

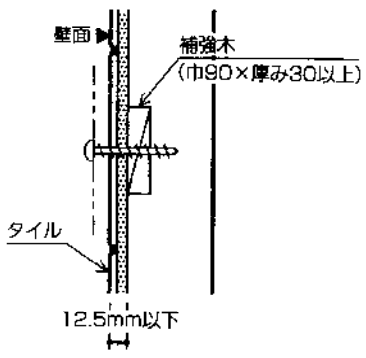
●ボード類直張り



●ボード類胴縁取付け



●タイル仕上げ



（2）湿式壁

●モルタル仕上げ　　●タイル仕上げ

※壁本体がコンクリートブロックの場合は中空部をモルタル詰めしてください。

4.床面の確認

- 設置する床は水平で著しい凹凸や不陸がないことを確認してください。
- 床面は強固でぐらつき、たわみが生じないことを確認してください。
  ※キャビネットがぐらついたり、取付け精度（納まり）が悪くなるおそれがあります。

お願い

浴室などの高温多湿な場所や水が浸る可能性がある床面には設置しないでください。
※木部が水を含んで腐ったりする恐れがあります。

施工方法

■ キャビネットの取付け

● 乾式壁（補強木）へのキャビット取付けの場合には付属のねじ（φ 4.5mm×60mm ）をご使用ください。

● 湿式壁への取付けの場合はＡＹボルト（ＡＹ－34W：別途手配）をご使用ください。

〔乾式壁への取付け（ねじ固定)〕

下図に示すように下記の手順に従って取付けてください。

（1） キャビネットを指定位置に設置し、壁面に当ててください。

（2） 下端のアジャスターで上下調節をし、キャビネットの水平をだしてください。特に洗面器立ち上がり部は化粧ミラーキャビネットが設置されますので必ず水平を確認してください。

アドバイス

水平でないとキャビネット、扉のふぞろいが生じます。

（3） 扉を開き、引出しを取出して付属のねじを用いキャビネット背板のねじ孔から壁面にねじ固定してください。

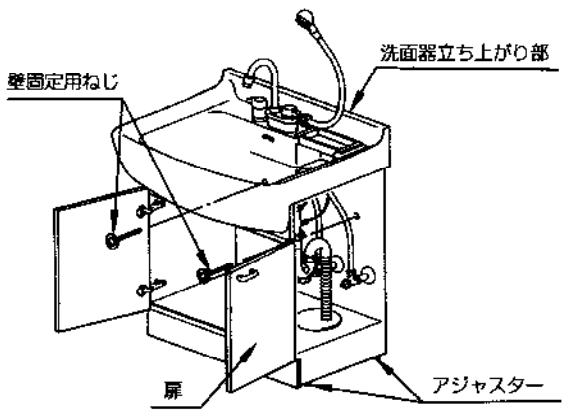
〔湿式壁への取付け（ＡＹボルト固定ＡＹ－３４Ｗ：別途手配)〕

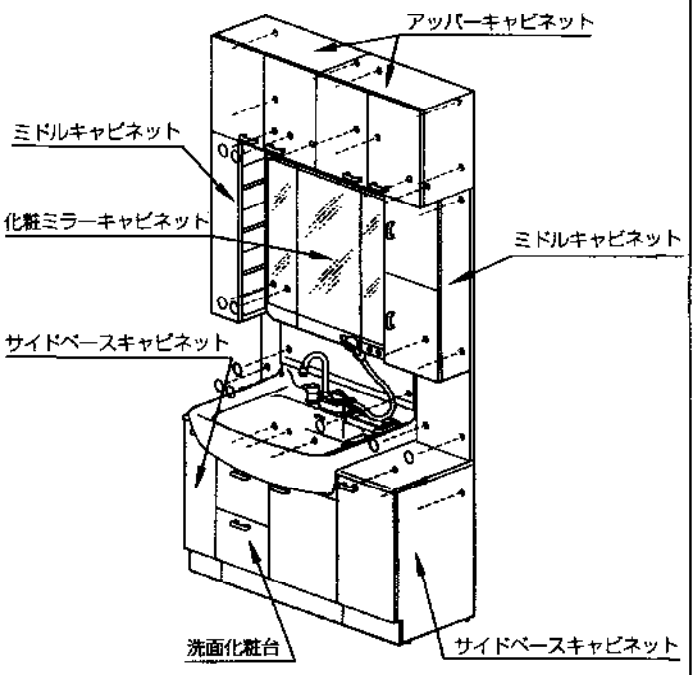
（1） ＡＹボルトの位置を確認し位置出しをします。

（2） 下孔（φ11.0深さ60mm）をあけ切粉をよく取除きます。下孔は電動ドリルを使用し正確に開けてください。

（3） ＡＹボルトを挿入してゴム筒を押さえてボルトを抜取ります。

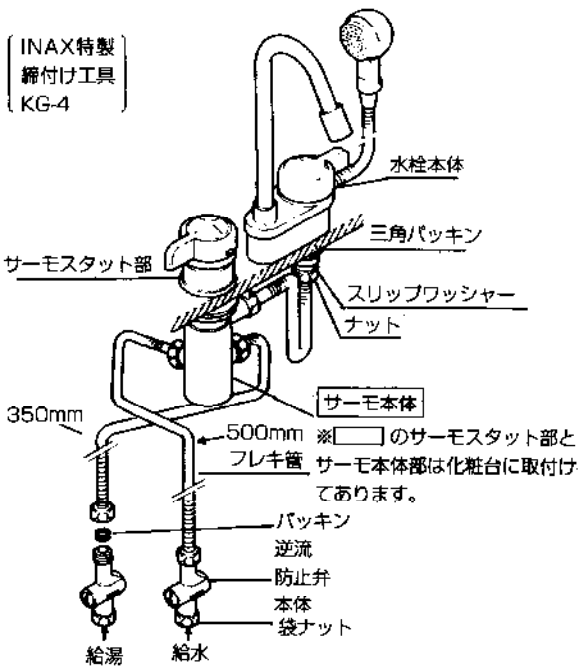
（4） キャビネットを壁面に当てキャビネット背板のねじ孔から壁面にボルトで固定します。



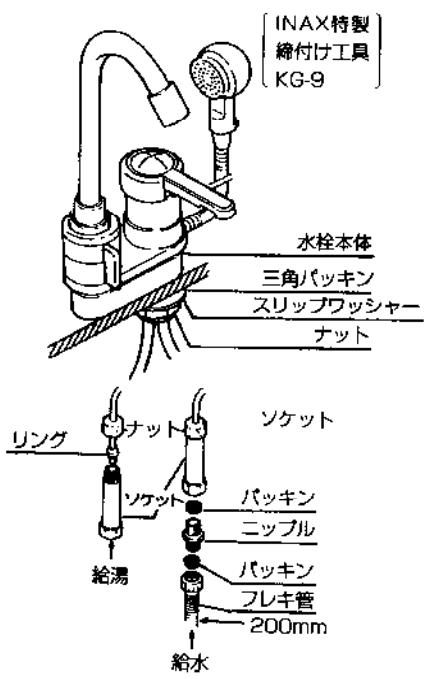


■ 水栓の取付け

● ＳＦ－２９Ｔ（サーモスタット付）

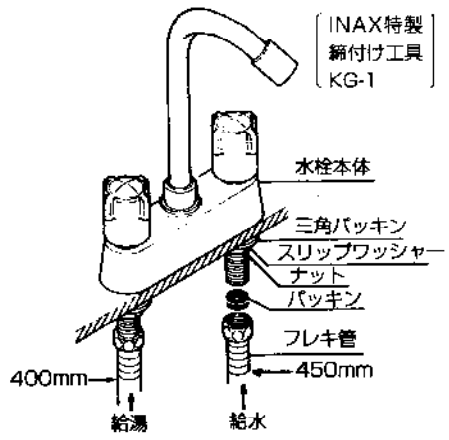


● ＳＦ－３５Ｓ（シングルレバー洗髪式）

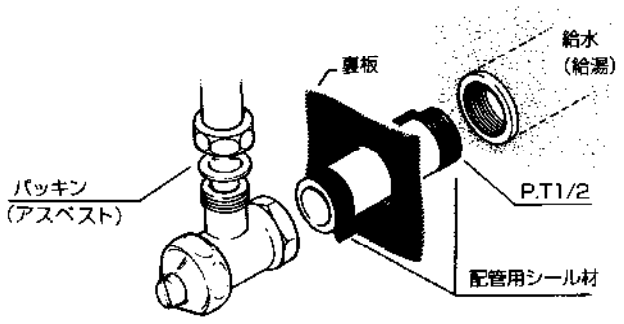


● ＬＦ－３４Ｓ（シングルレバー式）

● ＬＦ－２０Ａ（ツーハンドル式）



● 止水栓の取付け

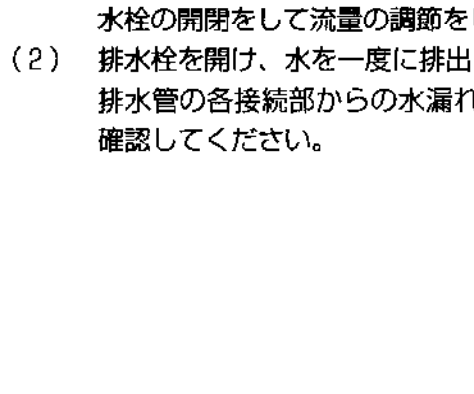


■ 排水トラップの取付け

● 洗面器下の排水口に排水トラップを図のように取付けてください。ナットは工具で締め付けてください。
排水口は取付けてあります。増締めはしないでください。ゆるんでいる場合は 980Ncm {100kgfcm} で締め付けてください。
※強く締めすぎますと管が破損し漏水となる場合があります。

● 建築側排水管には臭気止めパッキンをはめてから排水ホースを差し込んでください。

● キャビネットの底板にプレートをはめてください。



施工後の確認

■ キャビネット本体の確認

（1） キャビネットの取付けねじが十分に締まっているか、ゆるみがないか確認してください。

（2） キャビネット自体にガタツキ、壁とキャビネットの隙間がないか確認してください。

（3） ねじのゆるみ、キャビネットのガタツキがある場合は必ずねじ位置をかえて取付け直してください。

■ 吐水量、排水量の確認

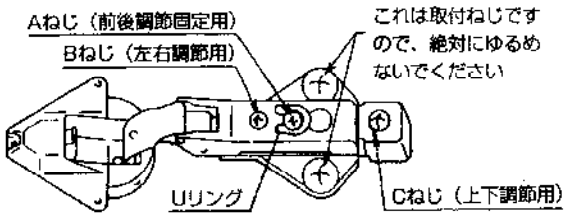
（1） 洗面器の排水栓を閉じて水を満水にし、吐水させて洗面器から水があふれないよう（オーバーフロー能力の範囲以内）水側、湯側の止水栓の開閉をして流量の調節をしてください。

（2） 排水栓を開け、水を一度に排出し、トラップ、排水管の各接続部からの水漏れのないことを確認してください。

扉の調節

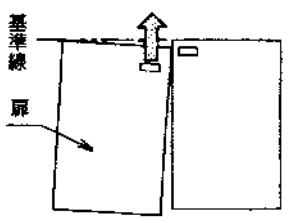
⚠ 注意

調節後は必ず、Aねじ、Bねじ、Cねじが固く締め付けられていることを確認してください。
※締付けが不足しますと蝶番がゆるみ、扉の外れ、落下によりケガをする恐れがあります。

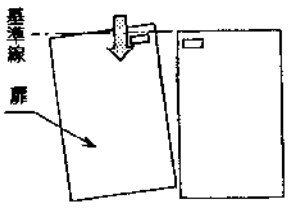


各ねじの調整量
Aねじ・・・前後方向に2～3mm
Bねじ・・・左右方向に2～3mm
Cねじ・・・上下方向に3mm

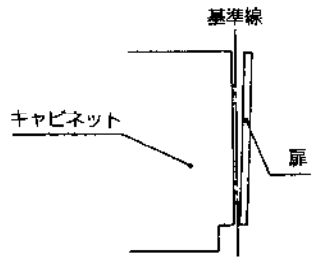
● 扉の先端が下がっているとき
① 扉下方の蝶番のAねじを左へ回してゆるめ、Bねじを約一回転ほど右へ回す。
または扉上方の蝶番のAねじを左へ回してゆるめ、Bねじを約一回転ほど左へ回す。
② Aねじを右へ回して締付ける。
③ 扉を閉めて確認する。
④ 正しい位置になるまで ①、② を繰り返す。



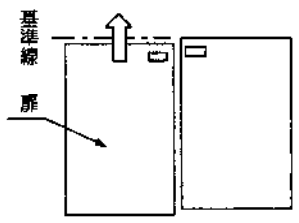
● 扉の先端が上がっているとき
① 扉上方の蝶番のAねじを左へ回してゆるめ、Bねじを約一回転ほど右へ回す。
または扉下方の蝶番のAねじを左へ回してゆるめ、Bねじを約一回転ほど左へ回す。
② Aねじを右へ回して締め付ける。
③ 扉を閉めて確認する。
④ 正しい位置になるまで ①、② を繰り返します。



● 扉と側板のすき間が上下異なるとき
① 扉上方の蝶番のAねじを左へ回してゆるめ、扉を動かして前後の正しい位置にする。
② 正しい位置でAねじを右へ回して締め付ける。



● 扉の位置が上下異なるとき
① 扉の上下の蝶番のCねじを左へ回してゆるめ、扉を上下させて正しい位置にする。
② 正しい位置でCねじを右へ回して締め付ける。



アドバイス

2枚扉（両開き）の場合で、片方の扉だけで調節できないときは、左右の扉で交互に調節を行ってください。

⚠ 注意

「アッパーキャビネット」「ミドルキャビネット」の扉の蝶番のAねじには、蝶番外れ防止用のUリングがはめてあります。調節の際になくさないようにしてください。また、調節後Uリングがきちんとはまっているかご確認ください。もしUリングをなくされた場合は取扱店または当社支社・お客さま相談室等へご連絡ください。尚、扉を外して施工された場合でも、Uリングをきちんとはめてください。
※Uリングがないと、蝶番のAねじがゆるんだ場合、扉の外れ落下により、ケガをする恐れがあります。